

V 在宅における医療・介護の提供体制

1. 終の棲家について

－「自宅」が5割台半ば－

問12 急速な高齢化の進展などから、住み慣れた環境で医療を受けられるよう在宅医療（※）のサービスの充実に取り組んでいます。あなたは、将来、どこで最期を迎えたいと思いますか。次の中から、一番近いものを1つだけ選んでください。

（※在宅医療とは、自宅での療養を希望する患者さんが、医師の往診や治療、訪問看護などの医療サービスを自宅で受けながら療養生活を送ることです。）



※（ ）内の数値は、平成24年の調査結果

終の棲家については、「自宅」（56.3%）が5割台半ばと最も高くなっている。次いで、「病院」（14.8%）が1割台半ば、「施設（有料老人ホーム、特別養護老人ホーム等）」（12.1%）が1割を超えている。

－「自宅」が約5ポイント減少－

前回調査（平成24年）と比べると、「自宅」が約5ポイント減少している。

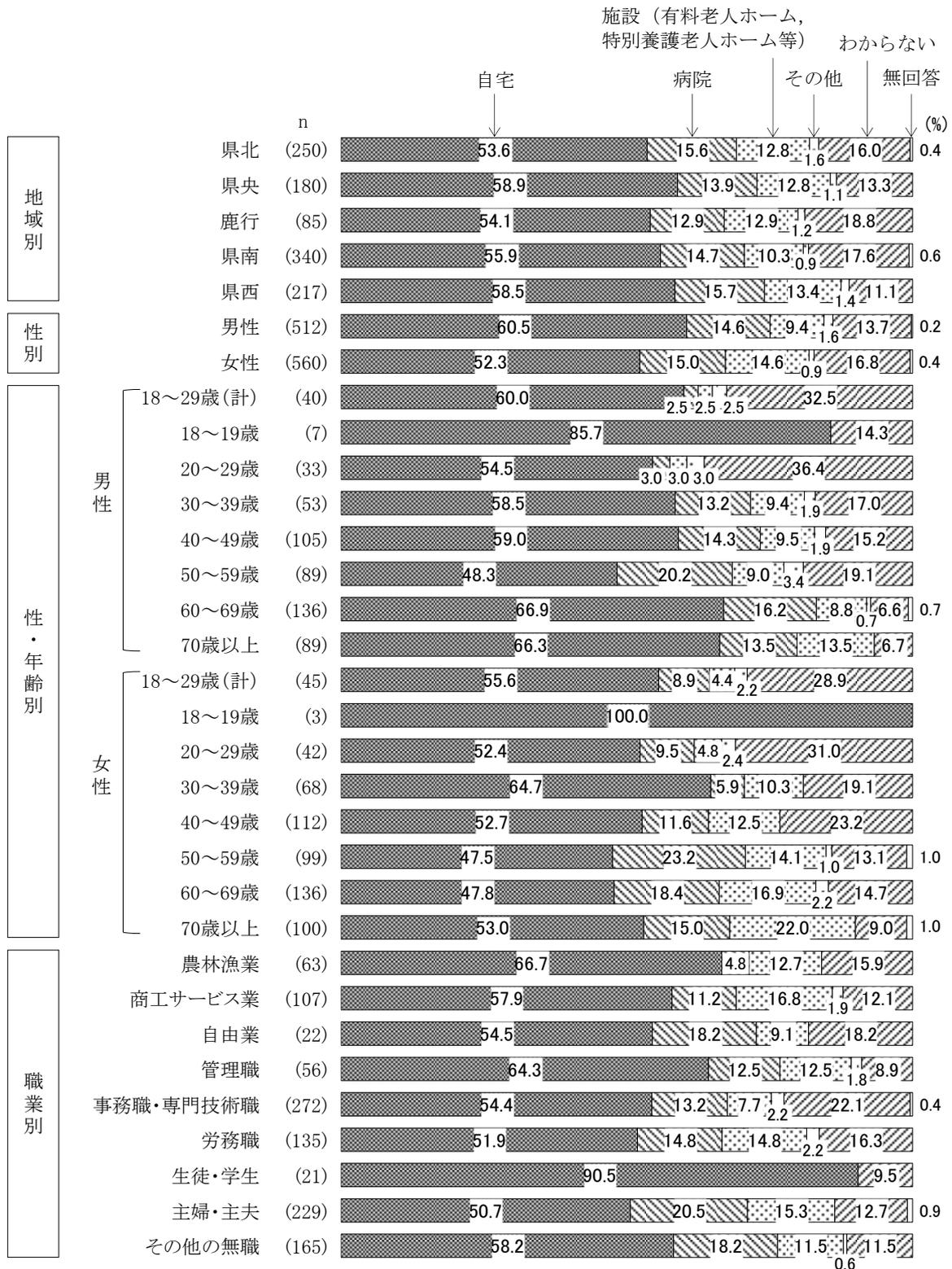
－男性で「自宅」が女性よりも約8ポイント高い－

性別で見ると、「自宅」は、男性（60.5%）が女性（52.3%）よりも約8ポイント高くなっている。一方、「施設（有料老人ホーム、特別養護老人ホーム等）」は、女性（14.6%）が男性（9.4%）よりも約5ポイント高くなっている。

－男性の60代、70歳以上、女性の30代で「自宅」が6割台半ば－

性・年齢別で見ると、「自宅」は、男性の60代（66.9%）、70歳以上（66.3%）、女性の30代（64.7%）で6割台半ばと高くなっている。

図V 12-1 終の棲家について
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別)



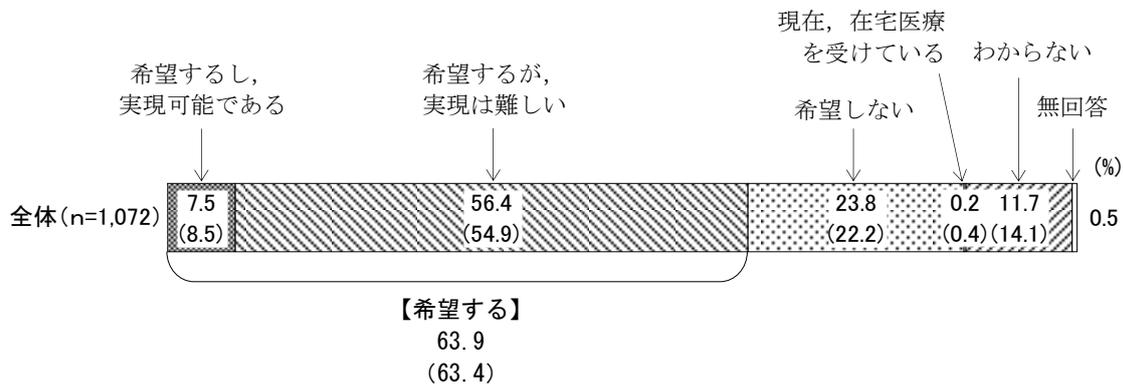
(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

2. 在宅医療

(1) 在宅医療の希望と実現の可能性

－【希望する】は6割台半ば－

問13 あなたは、脳卒中やがんなどで長期の療養が必要になった場合、在宅医療を希望しますか。また、その実現は可能だと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。



在宅医療の希望と実現の可能性としては、「希望するし、実現可能である」(7.5%)と「希望するが、実現は難しい」(56.4%)を合わせた【希望する】(63.9%)は6割台半ばとなっている。一方、「希望しない」(23.8%)は2割台半ばとなっている。

－特に大きな増減はない－

前回調査(平成24年)と比べると、特に大きな差はみられない。

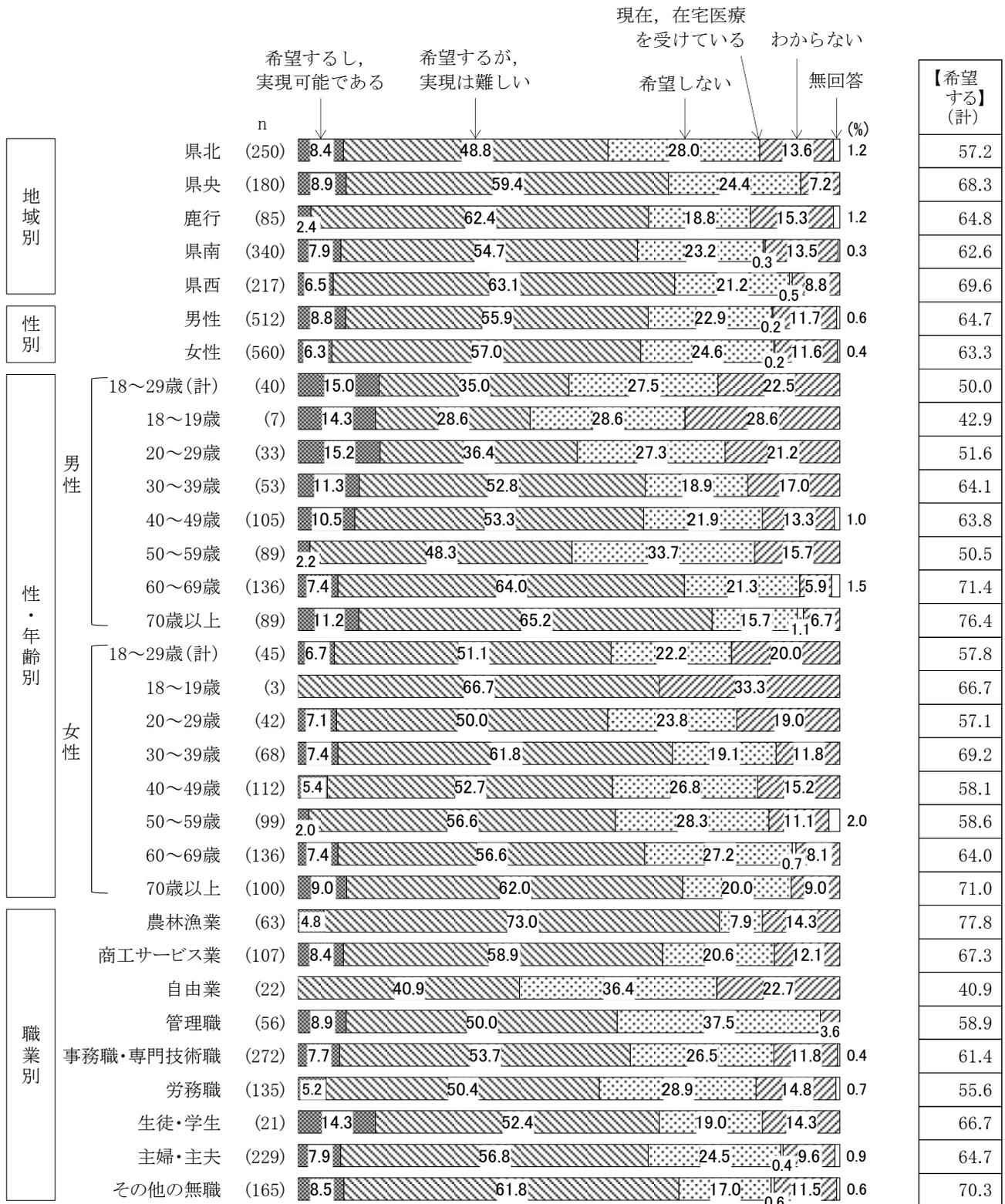
－県西と県央で【希望する】が約7割－

地域別でみると、【希望する】は、県西(69.6%)と県央(68.3%)で約7割と高くなっている。

－男性の70歳以上で【希望する】が7割台半ば－

性・年齢別でみると、【希望する】は、男性の70歳以上(76.4%)で7割台半ばと最も高く、次いで、男性の60代(71.4%)と女性の70歳以上(71.0%)で7割を超えて高くなっている。

図V 13-1 在宅医療の希望と実現の可能性
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別)



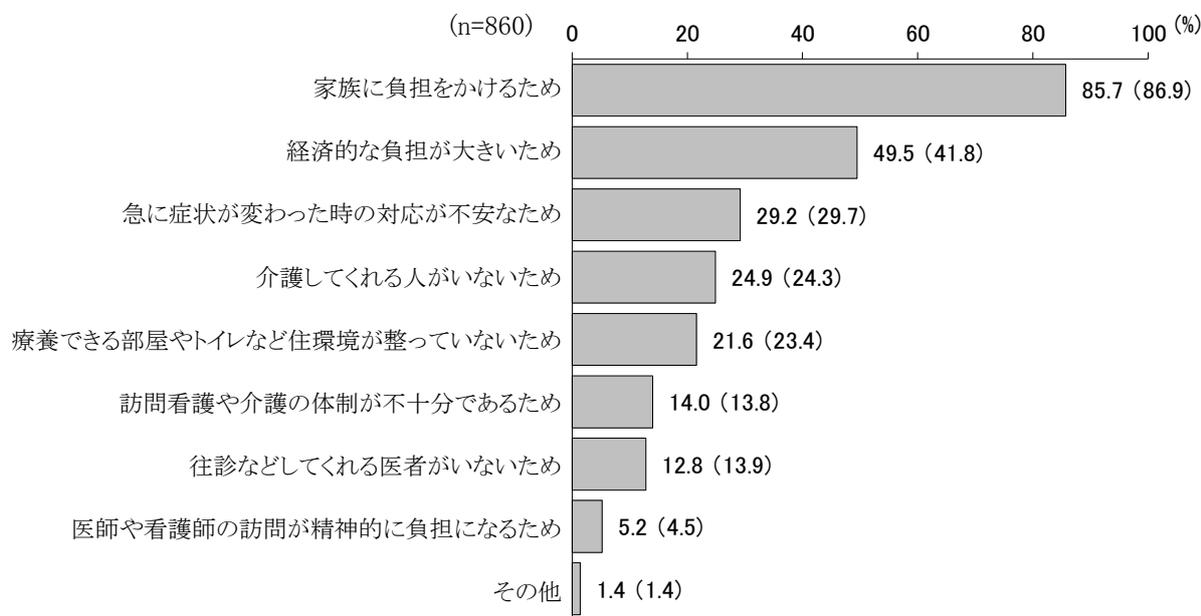
(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

(2) 在宅医療が難しい理由や希望しない理由

－「家族に負担をかけるため」が8割台半ば－

(問13で「2 希望するが、実現は難しい」, 「3 希望しない」と回答した方のみ)

問13-1 在宅医療の実現が難しい, または, 希望しない理由はなんですか。次の中から, あてはまるものを3つまで選んでください。



※()内の数値は, 平成24年の調査結果

在宅医療の希望と実現の可能性で「希望するが、実現は難しい」か「希望しない」と回答した方に、実現が難しい理由や希望しない理由を聞いたところ、「家族に負担をかけるため」(85.7%)が8割台半ばで最も高くなっている。次いで、「経済的な負担が大きい」(49.5%)が4割台で続いている。

－「経済的な負担が大きい」が約8ポイント増加－

前回調査(平成24年)と比べると、「経済的な負担が大きい」が約8ポイント増加している。

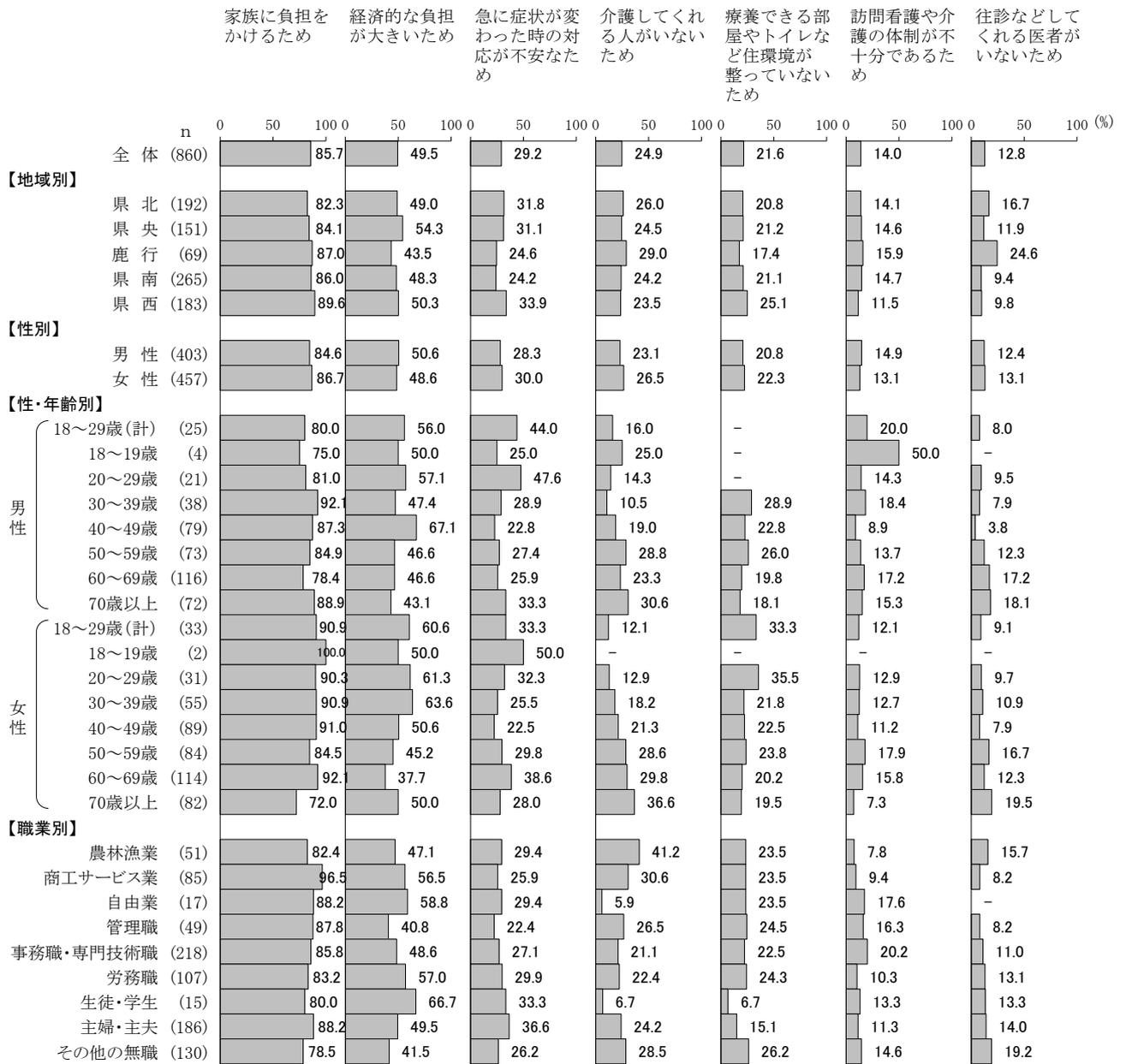
－鹿行で「往診などしてくれる医者がない」が2割台半ば－

地域別でみると、「往診などしてくれる医者がない」は、鹿行(24.6%)で2割台半ばと最も高くなっている。

－男性の40代で「経済的な負担が大きい」が約7割－

性・年齢別でみると、「経済的な負担が大きい」は、男性の40代(67.1%)で約7割と最も高く、次いで、女性の18～29歳(60.6%)と30代(63.6%)で6割を超えて高くなっている。

図V 13-1-1 在宅医療が難しい理由や希望しない理由
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



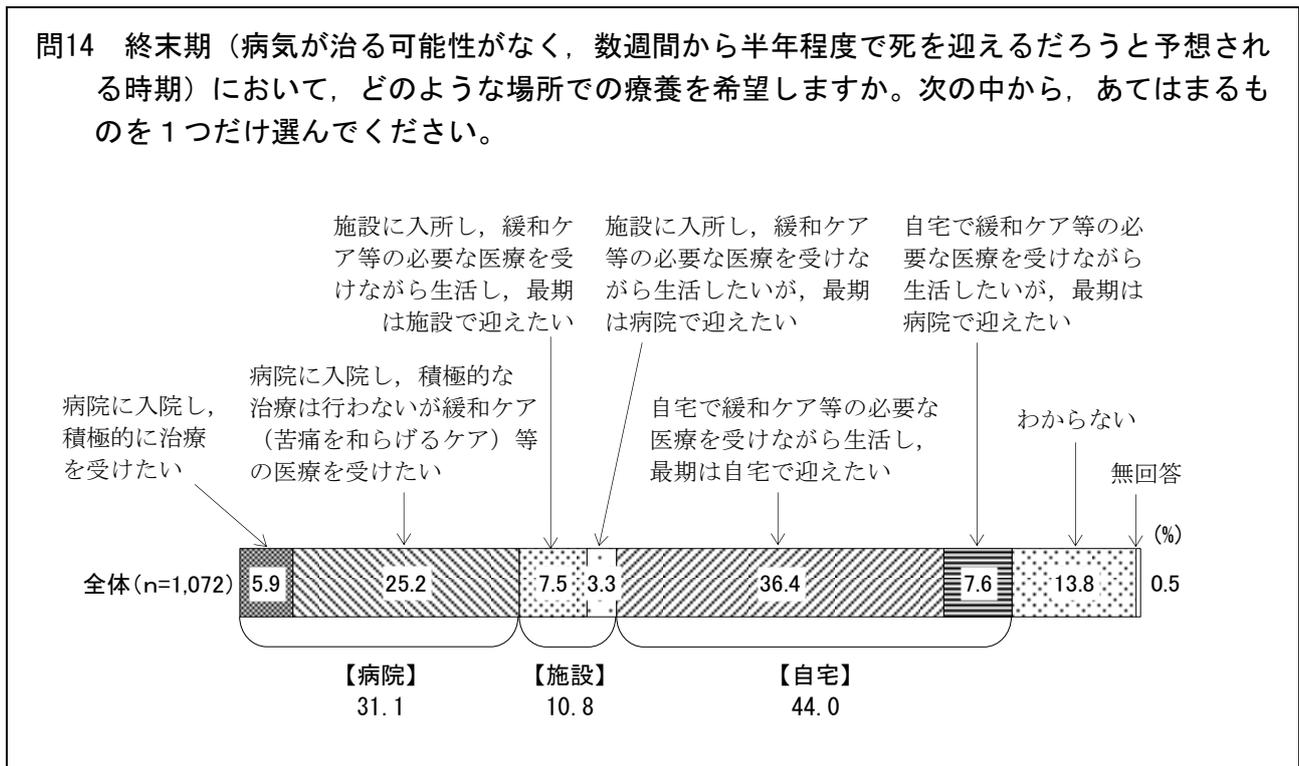
(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

表V 13-1-1 在宅医療が難しい理由や希望しない理由
(前回調査との比較—上位5項目)

	1位	2位	3位	4位	5位
今回調査 (H29) n=860	家族に負担をかけるため 85.7	経済的な負担が大きいため 49.5	急に症状が変わった時の対応が不安なため 29.2	介護してくれる人がいないため 24.9	療養できる部屋やトイレなど住環境が整っていないため 21.6
前回調査 (H24) n=876	家族に負担をかけるため 86.9	経済的な負担が大きいため 41.8	急に症状が変わった時の対応が不安なため 29.7	介護してくれる人がいないため 24.3	療養できる部屋やトイレなど住環境が整っていないため 23.4

3. 終末期療養を希望する場所

－【自宅】が4割台半ば－



終末期療養を希望する場所としては、「自宅で緩和ケア等の必要な医療を受けながら生活し、最期は自宅で迎えたい」（36.4%）と「自宅で緩和ケア等の必要な医療を受けながら生活したいが、最期は病院で迎えたい」（7.6%）を合わせた【自宅】（44.0%）が4割台半ばとなっている。一方、「病院に入院し、積極的に治療を受けたい」（5.9%）と「病院に入院し、積極的な治療は行わないが緩和ケア（苦痛を和らげるケア）等の医療を受けたい」（25.2%）を合わせた【病院】（31.1%）は3割を超え、「施設に入所し、緩和ケア等の必要な医療を受けながら生活し、最期は施設で迎えたい」（7.5%）と「施設に入所し、緩和ケア等の必要な医療を受けながら生活したいが、最期は病院で迎えたい」（3.3%）を合わせた【施設】（10.8%）は約1割となっている。

－県央で【自宅】が5割台－

地域別でみると、【自宅】は、県央（50.5%）で5割台と最も高くなっている。

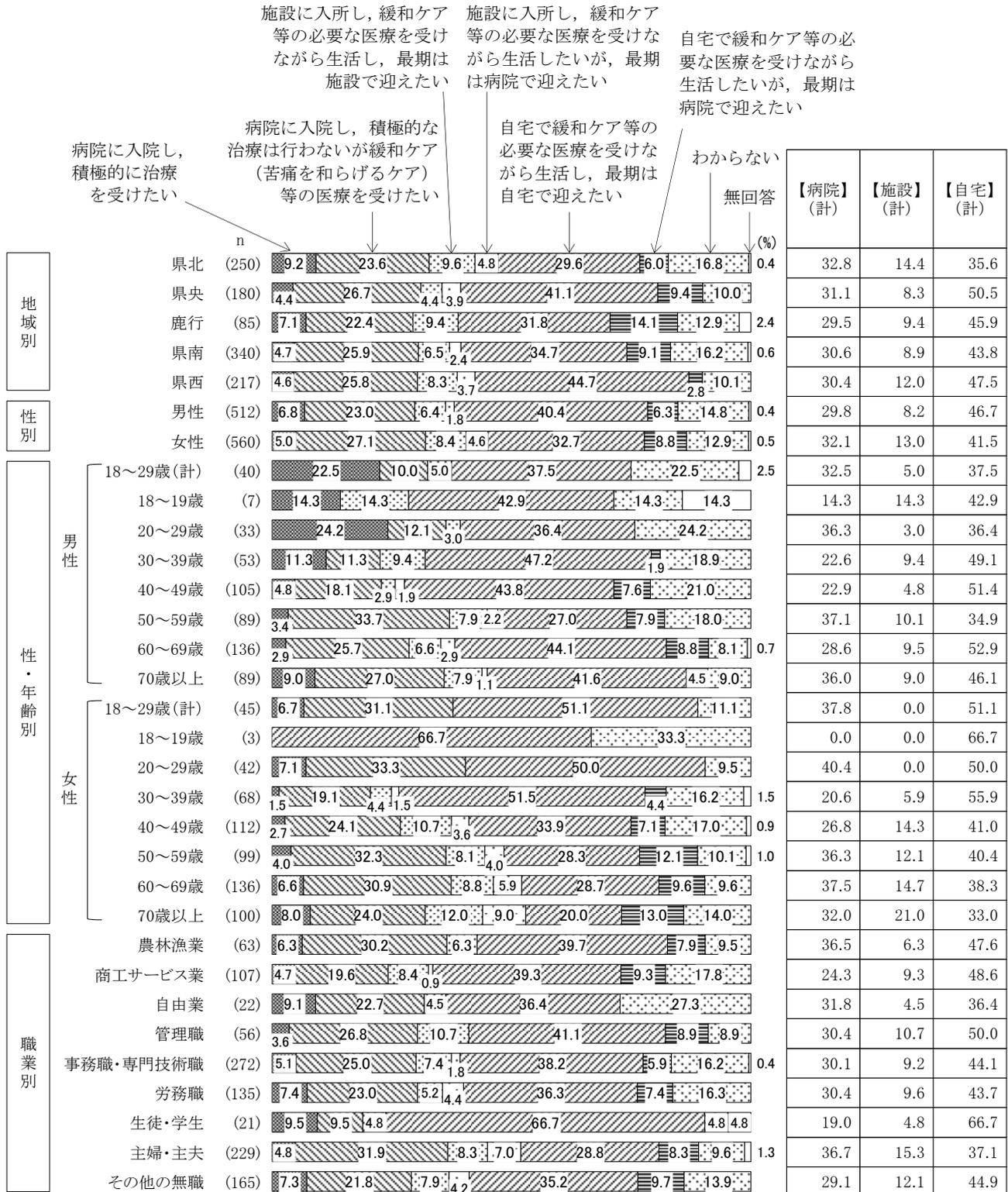
－男性で【自宅】が女性よりも約5ポイント高い－

性別でみると、【自宅】は、男性（46.7%）が女性（41.5%）よりも約5ポイント高くなっている。

－女性の30代で【自宅】が5割台半ば－

性・年齢別でみると、【自宅】は、女性の30代（55.9%）で5割台半ばと高く、次いで、男性の40代（51.4%）、60代（52.9%）、女性の18～29歳（51.1%）で5割を超えて高くなっている。

図V 14-1 終末期療養を希望する場所
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別)



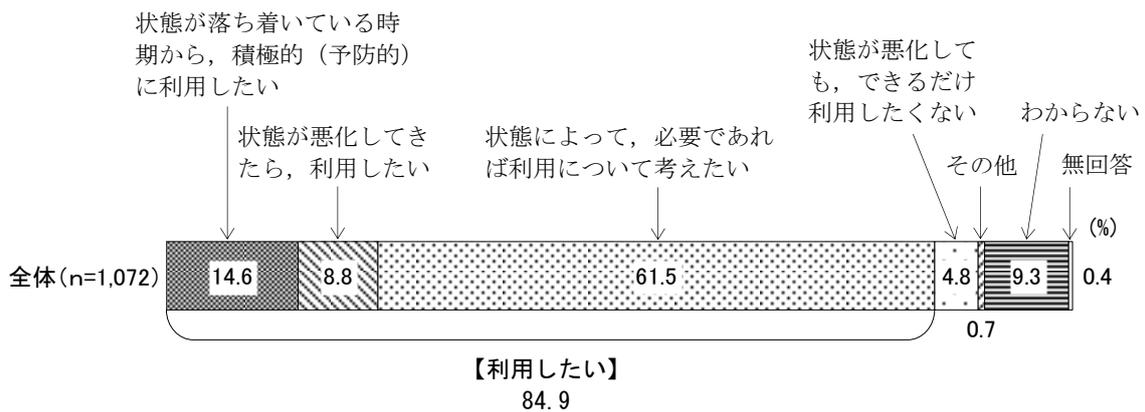
(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

4. 訪問看護利用について

(1) 訪問看護利用について

－【利用したい】が8割台半ば－

問15 病気や障害を持った人が、住み慣れた地域やご家庭でその人らしく療養生活を送れるように支援するサービスの1つとして「訪問看護」(※)があります。あなたやご家族の訪問看護利用について、自分の考えに最も近いものを、次の中から1つだけ選んでください。(※訪問看護：看護師等が生活の場へ訪問し、看護ケアの提供を行い、自立への援助を促し、療養生活を支援します。)



訪問看護利用については、「状態によって、必要であれば利用について考えたい」(61.5%)が6割を超え、「状態が落ち着いた時期から、積極的に(予防的に)利用したい」(14.6%)、「状態が悪化してきたら、利用したい」(8.8%)を合わせると、【利用したい】(84.9%)は8割台半ばとなっている。一方、「状態が悪化しても、できるだけ利用したくない」(4.8%)はわずかとなっている。

－県央で【利用したい】が約9割－

地域別でみると、【利用したい】は、県央(88.9%)で約9割と最も高くなっている。

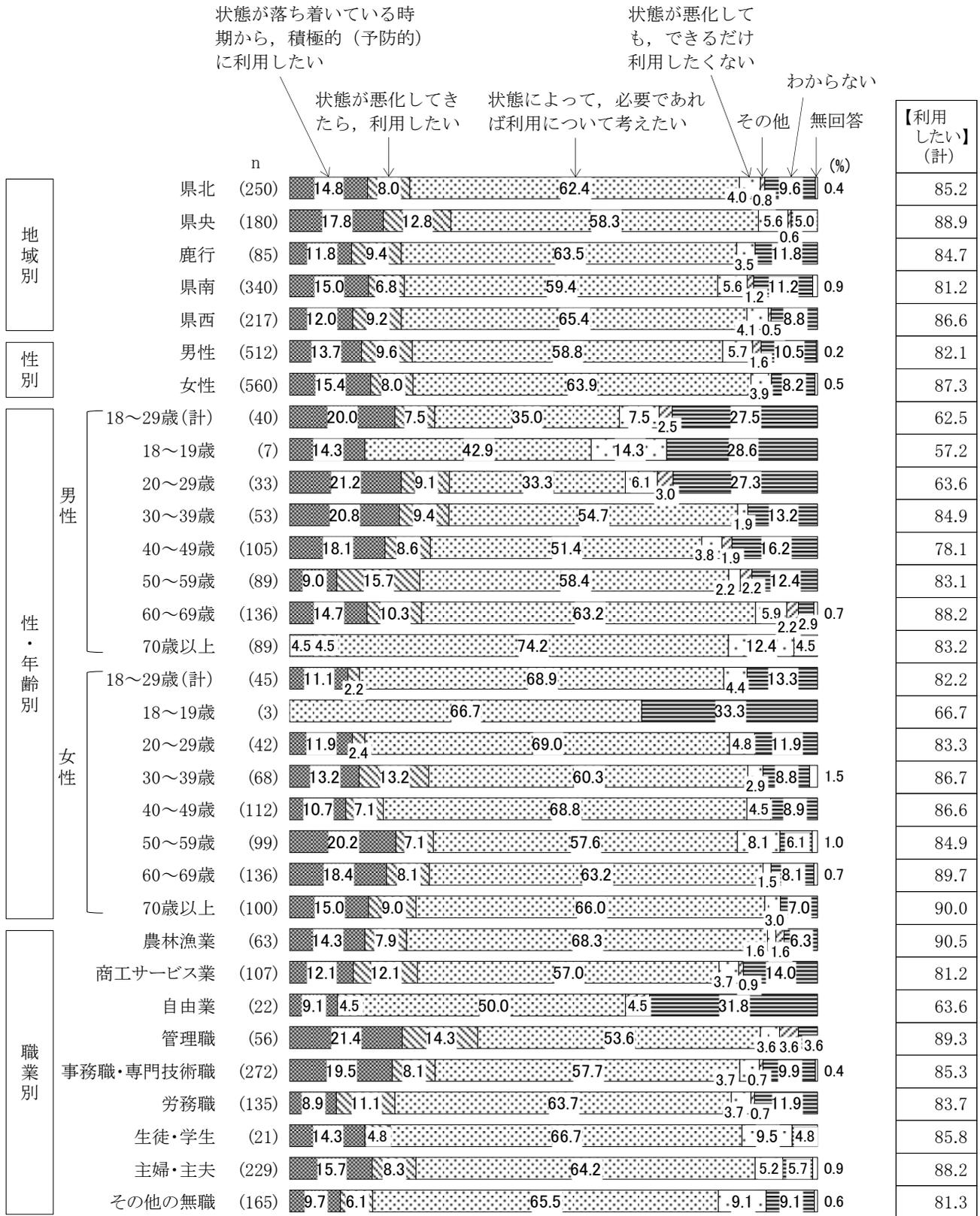
－女性で【利用したい】が男性よりも約5ポイント高い－

性別でみると、【利用したい】は、女性(87.3%)が男性(82.1%)よりも約5ポイント高くなっている。

－女性の70歳以上で【利用したい】が9割－

性・年齢別でみると、【利用したい】は、女性の70歳以上(90.0%)で9割と最も高くなっている。

図V 15-1 訪問看護利用について
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別)



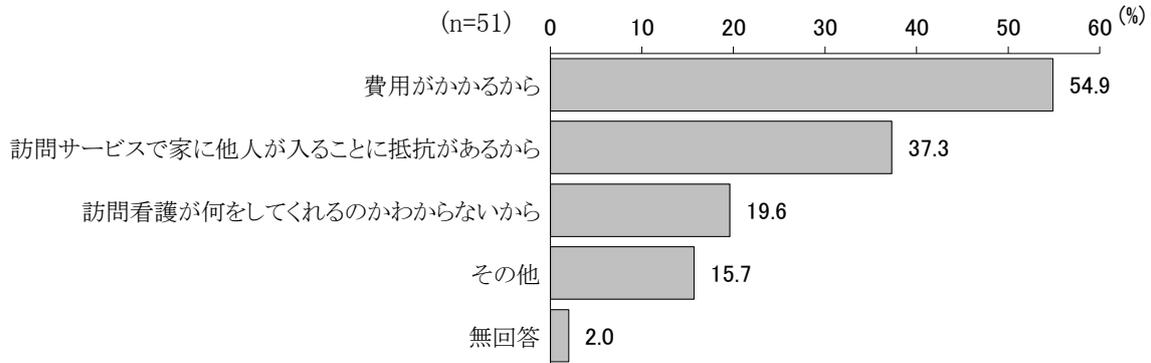
(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

(2) 訪問看護を利用したくない理由

－「費用がかかるから」が5割台半ば－

(問15で「4 状態が悪化しても、できるだけ利用したくない」と回答した方のみ)

訪問看護を利用したくない理由は何ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



訪問看護について、「状態が悪化しても、できるだけ利用したくない」と回答した方に、利用したくない理由を聞いたところ、「費用がかかるから」(54.9%)が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「訪問サービスで家に他人が入ることに抵抗があるから」(37.3%)が3割台で続いている。